

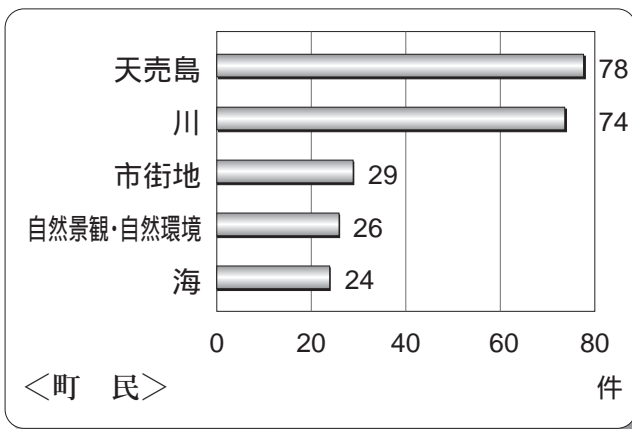
羽幌町の環境を守る基本計画策定事業の一環として、昨年12月に全町民世帯と中学生、高校生、町外在住の羽幌町出身者を対象にアンケート調査を行いました

羽幌町自然と環境とくらしのアンケート集計結果(4回目)

羽幌町のホームページでもアンケート調査の概要をお知らせしています

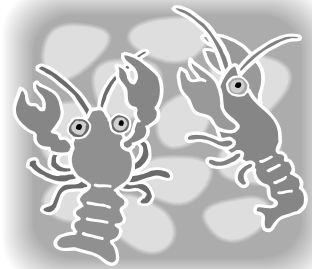
■羽幌町内の自然環境や生き物で、無くなったり、いなくなりそうなものはありますか、そこはどこですか、何ですか。(自由記述)

□ 無くなりそうなもののある場所(町民回答)



無くなったり、いなくなりそうな自然環境や生き物のある場所としては、「天売島」が最も多く挙げられ、その他「川」、「市街地」、「自然景観・自然環境」、「海」といった意見も多く挙げられました。
共通して挙げられている理由は、「環境変化」「農薬」「水質汚濁」でした。

- 「天売島」については「オロロン鳥」がいなくなりそうだという意見が最も多く挙げられました。「オロロン鳥」、「海鳥」がいなくなりそうな原因として、<町民>は「環境の変化」「他の鳥の増殖や漁網などの放置」などの意見が多くありましたが、また無回答も目立ちました。
<高校生>は「環境悪化や天敵」「わからない」、<中学生>は「天敵」「漁網」「環境悪化」、<出身者>は「自然環境変化」を原因として挙げています。
「オロロン鳥」については、報道などでも多く取上げられていることから、絶滅の危機にさらされているという認識が高いと考えられます。
- 「川」については、「川魚・水生生物」がいなくなりそうだという意見が最も多く、その理由として「農薬」や「河川改修」といった「水質の悪化」や「環境の変化」にかかわることが多く挙げられました。
- 「市街地」については「スズメ」や「ホタル」、「樹木」などの様々な生物が「環境の変化」や「農薬等」により、なくなりそうだという意見が挙げられました。
- 「自然景観・自然環境」については「森林」や「野鳥」などの様々な生物が「農薬等」や「森林伐採」により、なくなりそうだという意見が挙げられました。
ここで具体的な種別として挙げられたものは、「ザリガニ」、「ホタル」、「オオバナエンレイソウ」、「オオバユリ」など、昔はたくさんあったが現在では見かけなくなったり、生育環境が限られている動植物でした。



▶環境計画町民会議や環境アンケートについてご意見がありましたら、農林水産課自然環境係へご連絡ください ☎ 2-1211 (内線 347) E-メール nousui@town.haboro.hokkaido.jp